

★ 操 作 方 法 ★

ページの上でクリックすると次のページを表示します。右クリックすると前のページに戻ります。

※ Macintosh で、マウスに右クリックの設定をしていない方は、キーボードの「control」キーを押しながらマウスをクリックすると前のページに戻ります。

※ iPad では、上下スクロールでご覧いただけます。

続・大復活

～コミカライズコーナー始末記

特別展示

コミカライズ作品コーナー



1972年	「ミラマン」かたおか徹治 小学館 (1972年) / 1972年10月号 「トリプルファイター」 テレビマガジン (講談社) / 06月号~7月号01月号 「新進一途」 小学館 (1972年) 10月号~12月号 「アイアンキング」かたおか徹治 小学館 (1972年) / 1月号~7月号02月号
1973年	「ファイヤーマン」かたおか徹治 小学館 (1973年) / 1月号~2月号 「ファイヤーマン」光伸書房 小学館 (1973年) 「ファイヤーマン」 小学館 (1973年)
	「嵐人ハンター」 小学館 (1973年) 「嵐人ハンター」 小学館 (1973年) 「スーパード」 テレビマガジン 「ミカドイデ」 小学館 (1973年)

1974年	「ゼロデスター」西沢とおる (小学館) / 1974年10月号 「テレビランド (講談社) (雑誌) / 09~11月号 「ジャンボニア」かたおか徹治 小学館 (1974年) / 12月号
1975年	「電撃 ストラダス (ファイブ)」かたおか徹治 小学館 (1975年) / 09月号~10月号 小学館 (1975年) / 09月号 「風の魔法」かたおか徹治 小学館 (1975年) / 05月号~07月号
1976年	「宇宙行進大冒険」新宅よしみつ 講談社 (1976年) / 読者の友 (雑誌) 「銀河ジープ」新宅よしみつ たしの山 (雑誌) / 1月号~12月号 「小さな巨人ミクロマン」新宅よしみつ 講談社 (1976年) / 02月号~03月号
1977年	「ゼロデスター」かたおか徹治 小学館 (1977年) / 06月号~08月号 「ジャンボニア」新宅よしみつ 小学館 (1977年) / 12月号~1978年01月号 「ダンセンマン」新宅よしみつ 小学館 (1977年) / 12月号~1978年01月号 「マダモロバ 若・キーン」新宅よしみつ たしの山 (雑誌) / 09月号~11月号
1978年	「自衛隊員スカンデロソ」かたおか徹治 てれびくん (小学館) / 1978年04月号 「美少女カーン」かたおか徹治 小学館 (1978年) / 07月号
1979年	「ゴッドマン」 てれびくん (小学館) / 10月号~1979年01月号
1979年	「新ウルトラ兄弟物語」 コロコロコミック (小学館) 1979年04月15日~05月号 「ブルニア」 小学館 (1979年) / 1月号~04月号



かたおか徹治

40年前の原画展

40年前、1971年の秋(?)、当時在阪の若き新鋭漫画家Y・T氏(後に当時の作風とはまるつきり逆のギャグ漫画「××デカ」で大ヒットを飛ばす)が豊中市内のある喫茶店の2階会場を借り、漫画原画展を開いた。

「漫画激画展」と銘打ち、当時発行されていた漫画専門誌、「COM」(※1)に開催の予告記事が小さく掲載された。その小さな告知記事にも関わらず、大盛況だった。展示内容は「影」「魔像」「オッス！」等大阪の貸本老舗出版社光伸書房(※2)で出された単行本の原稿がメインに展示された。辰巳ヨシヒロ、K・元美津、平田弘史、臣新蔵、山本まさはる、沼田清、水島新司、

※1=1967年1月号~1971年12月号まで発刊。73年に8月号として、1号だけ復刊。 ※2=光伸書房~東京・日の丸文庫と同一会社で、2つの顔を持ち、貸本出版から一般雑誌出版に進出しようと「少年ジャイアンツ」(1968年2月号で廃刊)や「劇画マガジン」(1970年2月25日号で廃刊。私は1969年・高2の時、持ち込みに行った)などを出版していた。

篠原とおる、影丸讓也諸氏が名を連ねていた。勿論その中に若き漫画家Y・T氏の開催の言葉と原稿も展示されていた。

Y・T氏主催の最初で最後のその展示会は、一世を風靡した『貸本単行本時代』が世の人々から忘れ去られないようにと、数年前まで同社編集者でもあった氏が会社の上役に掛け合い実現させたのだ。

Y・T氏たった一人(?)で起こした原画展。展示の内容は原稿を羅列し、主催者の開催の挨拶を掲示しただけのシンプルな物だった様に記憶している。

私は、Y・T氏が原画展を開いた年にアシスタントとしてお世話になり、一年先輩のKINKAN氏と共にその展示会のお手伝いをした。読切漫画の合間を縫っての準備だったので、本当に大変だった。そんな事が昔あった、今は懐かしい思い

出だ。

40年前の同人誌「つれづれ草」

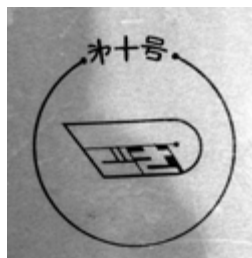
私がY・T氏のアシスタントになる3年程前、全国規模のマンガ同人誌集団、「グループエンゼル・つれづれ草」に縁あり入会させてもらった。肉筆マンガ同人誌「つれづれ草」の活動期間は約3年との事だが、私は後期の入会なので、肉筆回覧誌も数冊しか見ていない。

そんな「つれづれ草」だが、3年ほど前の新年会で「あの頃が懐かしいなア」と火が付き、いつの間にか「つれづれ草」復活の話にまで話が拡大した。お開きの頃には益々熱が入り、年末の冬のコミックマーケットに参加を前提に、「復活創刊号」の発行と締切がすでに決まっていた。と、盛り上がったっていたのは山下・おだ両氏……? あと

のメンバーは我関せずの体を……。



つれづれ草10号の表紙とグループのロゴ



1969年に描いた、同号掲載の『星の精ヤン』。当時コピー機が一般に無く、42年ぶりの再会。

コミカライズコーナー始末記

復刊した「新つれづれ草」は、年2回の発行を維持し3年、原画展も昨年に続き第2回目（11月24日～27日）を開催する事となった。今回は昭和47年頃から約10年間に発表されたアニメや特撮番組を「つれづれ草」のメンバーが漫画化したコミカライズコーナーを特設すること……。

コミカライズ作品数がメンバーの中で一番多いという事で、コーナーの担当をさせて貰う事になった。活動再開以来、時々寄稿する程度で何らお手伝いらしき事すらしていなかったので、気軽な気持ちで始めた。同時に他のメンバーの描いた原稿のネーム打ちの手伝いも引受ける。

甘かった……。版權使用許諾を取るのに、この後大きな壁に阻まれ、苦戦する事になる。オリジナル作品と違い展示に際して幾つもの関門をくぐ

らなければならなかった。

一番ネックとなったのは40年という歲月だった。版權所有者が直ぐに分かれれば作業ははかどるのだが、何せ半世紀近く昔の事、原作者が亡くなり所有権が分散していたり、倒産等で管理者が転々としてたりで、それをたどるのに時間の大半を割かれる事になる。問題は版權所有者が誰で、どこに居るのかだった。

その筆頭は原作者が最後まで見つからなかった『剣道一本』。

これはメンバーの森正人氏のデビュー作で、「小学四年生」で連載されたもの。三浦友和主演の剣道青春ドラマで、国際放映では原作者の承諾を得なければ手続きが出来ないとの事。原作者である「吉田豊」で検索したところ、武道関係の本が一

件ヒットしただけで、それ以上の検索は無理だった。同名の漫画家、「吉田ゆたか」でも検索して見たが別人だった。と言う訳で歲月の経過を恨み、展示は諦めるほか無かった。原作者不明ではまるつきり手も足も出ない状態である。

次が『ストラダ5』。日活担当者によると「MCC」の承諾が得られればOKとの事。早速そのMCCを探す事になるが、その正体も手がかりもまるで無い。マンガ原稿のトビラのクレジットには大手広告代理店「萬年社」。検索すると、二十一世紀目前、百年余に渡るその長い歴史に終止符を打っていた。

途方に暮れていると、展示用に当時の雑誌をお借りする事になっていた映像プロデューサーの岩佐陽一氏から、あるサイトの情報を得る。

そのサイトの管理人H氏は、72年にテレビ放映

MCCと衛藤公彦～衛藤さんを偲ぶ～

私（安田）の住んでいる町田市に小さな有限会社があるが、今年の夏7月に四期目の決算期を迎え、エム・シー・シーを略称してMCCと言っている。

実はこの会社は去年8月にガンで急逝された衛藤公彦さんが設立された会社で、元萬年社の古い版權を扱うことを主目的に萬年社が倒産（1999/4/25）した直後にスタートし現在は私が代表となっているのである。

振り返ってみれば、萬年社がまだまだ元気だった1972年から76年にかけては、「月光仮面」「ワイルド7」「レインボーマン」（以上72年）「ファイアマン」

「流星人間ゾーン」「デイズニーぱれーど」「ダイヤモンドアイ」（以上73年）「ストラダ5」「破裏拳ポリマー」（以上74年）「まんが日本昔ばなし」（75年）「アステカイザー」（76年）と面白い作品が立て続けにテレビ放映されている。萬年社のスタッフとして上記の全ての作品に衛藤さんはプロデューサーとして関与されているが、テレビアニメ創成時「鉄腕アトム」を世に問い大ヒットを飛ばした経緯から考えれば当然の流れではあったと思う。

一見華やかに見える広告代理店業界の栄枯盛衰は激しく、萬年社はその後急速に力を失い倒産に至るのであるが、同社の花の時代に上記のような多くの諸作品の創出に腕を振るうことができた衛藤さんは、サラリーマンとしては非常に幸せな方ではなかったろうか。

さてその衛藤さんとの付き合いのスタートは私の商社マン時代1年間だったが萬年社に出走したことから始まっている。

パブルの最後のあだ花がまだ咲いていた頃、通産省が音頭をとって設立された日本イベント産業協会に出走していた私は、萬年社への出走予定第一候補者が急に都合悪くなって代替的に同社への出走を突然命ぜられたのであった。

H氏のホームページ「ワイルドセブン・ワールド・オン・ウェブ」
http://movie.geocities.jp/wild7_world_web/

された『ワイルド7』をこよなく愛し、それが高じて立ち上げたサイトで、それらに関する記事を数多く紹介されている。

その中に「萬年社」の著作権を引き継いだ、「MCC」のY氏が寄稿された文面が掲載されていた。その内容から萬年社関連の著作管理をしている人物と伺えた。しかしH氏に確認しようにも掲示板があるだけで一方通行。しかも暫くの間、更新を休止しているようだ。ともかく用件と「新つれづれ草」のURLを書込んだ。（10月11日）

展示会まであとひと月半。焦るばかりで先が見えない。『ストラダ5』は日の目を見るのだろうか？ 待つしか無い……。

書き込みをして間もなく「新つれづれ草」編集部にはH氏のメールが届いた。ダメ元で展示を半ば諦めていたので、心が躍った。H氏が私の書き込みを見て、編集部に返事をくれたのだ。

その後、数回のメールのやり取りの後、ある代理店のURLを教えてもらい、やっとY氏の代理

人T代理店とコンタクトが取れ、『電撃!! ストラダ5』の展示許可が出た。(10月17日)

最後が『ダイヤモンドアイ』。

作家で作詞家、そしてテレビ創世記に子供向けのヒーロー物ドラマを数々発表した、K氏。この人の著作権は一体どうなっているんだ？

とにかく複雑怪奇なのだ。小学館の学年誌、少年サンデー等でコミカライズされた。その時のクレジット表示が「A企画センター」となっていたので問い合わせたところ、「現在保持していない」との応え。現在所有権が何処にあるのかも判らないと言う。著作権を保有していたにも関わらず、転出先が判らないとはどういう事か？ ついに迷子になってしまった。

何処をどう探せば良いのだ？ 岩佐氏にSO S。そのやり取りの間にどうも現在の著作権管理者

が前述の「MCC」のY氏であると判明。早速T代理店に連絡するが中々連絡が取れない。

右往左往しているうちにアツという間に開催日まで20日を切ろうとする頃、T代理店からY氏とコンタクトが取れたとの電話。これで僅かな手がかりしかなかった作品全ての展示が可能となった。(11月5日)

嵐の後で……感謝、感謝……

原画展の経験は今回が2度目と言う事になる。著作権関係の準備は2カ月前から始めたが、これ程時間を取られるとは思いもなかった。著作権交渉など未知との遭遇が出来、充実感溢れる日々だった。

しかし、いつもの事であるがその後資料パネル作りでまたまたバタバタとし、スタッフに迷惑をかけてしまう事になる。

今回特にお世話になったのが岩佐氏。彼がいなければ、少なくとも2本の作品は、日の目を見ることは無かった。さらに、「まだある、昭和ナビ」での紹介も無かった。氏には心から感謝、感謝である……。

The screenshot shows a news article on the website 'showanavi.jp'. The main headline is '中高年になった“昭和のマンガ少年たち”によるマンガ原画展開催 - 『ウルトラ兄弟物語』など懐かしのコミック作品の原稿も展示'. The article text includes: '“シニアのシニアによるシニアのための”おやじマンガ同人誌『新つれづれ草』が主催する『第2回マンガ原画展』が、11月24日から27日まで、江東区文化センターで開催。昭和のマンガ少年たちの現在、過去のマンガ原稿や写真などが展示される。' It also mentions that the exhibition is the first since 1967 and includes original manuscripts of 'Ultraman Brothers' and other manga.

「まだある昭和ナビ」で原画展の紹介が……。
<http://www.showanavi.jp/news/2011/11/post-635.php>

最後に、今回版權関係でお世話になった方々を記し脱稿とする。

Special Thanks (敬称略)：岩佐陽一／株式会社円谷プロダクション／株式会社竜の子プロダクション／日活株式会社／東北新社株式会社／東宝株式会社／株式会社ICHI／西野聖市／国際放映株式会社／小学館児童・学習編集部／塚原正廣／中央映画貿易株式会社／ワコープロ／飛間大陸／株式会社円谷クリエティブ／有限会社MCC／手塚プロダクション／ダイナミックプロダクション／まだある。昭和ナビ／長谷川桃子

【新つれづれ草第7号（2011年12月31日発行）に掲載した原稿に加筆訂正しました】